

# 一月読みとりおけいこ⑧（中）

名前（ ）

今年の干支は牛さんです。牛の話をしてみましょう。

昭和三十年代まで京都市内にもたくさん牛がいました。

馬と共に、牛はトラクターのかわりをしていました。たがやす時はすきをつけて、ならす時はまぐわをつけて、

お百姓さんといっしょに朝から日のくれ（夕方）まではたらきました。お百姓さんは、夕ぐれになると、自分の牛を近くの川に連れて行き、わらのブラシできれいに洗つたあげました。そして、家の玄関を一しじょにくぐつたのです。

たくさん牛をミルク用やお肉用にかつている牛かいさんは自分の家のほかに牛小屋をもつていて、お百姓さんはふつう一頭の牛を大切にしていました。牛小屋よりも、目のいきとどく、母屋（おもや）の入り口近くに、牛の部屋をもうけて、一つ屋根の下で牛とくらしたのです。

牛のえさはあたりの草です。むかしはあちこちに牛のえさになる草がありました。冬用の干し草もかりとつて屋根うらやなやにためてありました。

牛のふんはすばらしい肥料になりました。牛小屋をそうちする時に外に出して、また畑や田んぼに返します。

江戸時代は肉食は仏教の教えに反するということでおこなわれませんでした。（ただ、薬食いと称して、こつそり肉食がおこなわれることもありました。彦根藩（ひこねはん）では近江牛のみそづけを徳川の殿様（とねりさま）にさしあげていたといいます。）

牛のほねをぐつぐつにてとつた「にかわ」というものは日本画の絵のぐを使うときや、なにかをくつつけるときや丈夫にするときに使われました。

いろいろな面で日本人は牛のおかげをこうむつてきたわけです。音読サイン→

① 何の話でしよう？

② 牛は今（きかい）の機械でいうと何の代わりをしていましたのですか？

③ たがやすときに牛につけるものは何ですか？

④ 夕方、お百姓さんは牛をどこに連れて行つたのですか？

⑤ ④はなんのためですか？

⑥ なぜ昔の農家は家の中（うち）で牛をかつてていたのですか？

⑦ 牛のふんはなににつかわれましたか？

⑧ 江戸時代はなぜ焼肉屋さん（やきにくやさん）がなかつたのですか？

⑨ あつてているものに○をつけましょう。

（ ）江戸の将軍は肉食は一切しなかつた。

（ ）牛のほねも役に立つた。

（ ）牛は夕方になるとお百姓さんを川で洗つた。

⑩ 上の文の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

